

「あらゆるときに 主を」
詩篇 34 篇 1～10 節(宣教要旨)
説教者 A.Na



詩篇 34 篇は、試練や苦難を経験する中(Ⅱサム 21:10-15)でもなお、唯一そのすべての恐怖や苦難から助け出してください

くださるのは主であることを確認できる詩篇であると思われる。

[1～3 節…個人と教会全体の主への賛美]

本日の 34 篇は、各節の初めの文字がヘブル語のアルファベットになっている詩篇である。アルファベットだからこそ記憶に残りやすい工夫であり、それだけ憶えておくべき重要な詩篇であるのではないか…その後の初代教会でも引用されている(Ⅰコリ 1:31, Ⅰペテ 3:10-12)。

1 節から 3 節で、ダビデの主への賛美が高らかになされている。2 節では、個人のたましいの賛美、その人の全存在を表すたましいが主を誇り、それを聞く貧しい者は喜ぶ。

貧しい者とは…主を恐れ、主を慕い求める、主のみことばに飢え渴き低くされた者、そのような信仰者のこと。私たちの周りには信仰の友は、私の全存在が主を誇る時、それを共に喜び、一つになって御名をあがめるのである(3 節)。

共に主を求め、主を恐れ、主のみことばに聴く私たちは、それぞれが主をほめたたえ、また教会全体が一つとなって、主の御名をあがめるのである。

[4～7 節…主を恐れ、主を求める者にある救いと平安]

主を求める者に主がその声を聞かれ答えてくださり、苦難から助け出してください

くださることが語られている。主を求め、苦しむときに主を呼び求めると、すべての恐怖やすべての苦難からの救い、つまり本当の安心、主にある平安が主によって

与えられる。

7 節…第二列王記 6 章のエリシャのことを思い出させる。主の使いが主を恐れる者の周りに陣を張り、確実に守られたこと、その主の圧倒的な勝利と平安が主を恐れる者に与えられることを、ダビデのこの賛美も証している。

[8～10 節…主はいつくしみ深い方]

何を味わい見つめるのか…「主がいつくしみ深い方であることを」

この「いつくしみ深い」とは、一般的に「よい」を意味する語。主はよい方であって、私たちに良いものを与えてくださるお方である。

「乏しい」…十分でないこと、足りないこと、または経済的に貧しいこと。主を恐れる者には、主が恵みを十分に与えてくださり、足りないものなど何も無い。

「若い獅子」…有能であるが神を信じないものを象徴している。

主を知り、主を恐れ、主に身を避ける人は、私たちが最も必要とする霊的な栄養を与えられている。主を知ること、それが私たちに必要なことであり、主だけで十分なのである。

私たちはただ主を、主のみことばを求めていかなければならない。主がいつくしみ深い方であることを味わうとは、主のみことばを味わうこと(Ⅰペテ 2:2,3, 詩 19:10, 詩 119:103)。

主は、私たち一人一人に何が必要であるのかを知っておられる。主を慕い求め、主を恐れる者は良いものに何一つかけることがないことをおぼえつつ、霊的に満たされて歩みましょう。

[主を恐れ、主をほめたたえよう！]

みなさんは、あらゆるときに主を…ほめたたえますか。恐れますか。求めますか。いつも口に主への賛美がありますか。

主に救われ、主を礼拝する者として、また教会全体が心から主に信頼し、主を恐れる信仰者として歩み、主をほめたたえましょう。